

事例

生産者と交流し、1週間の滞在を通して食の裏側を学ぶ

あめかぜたいよう
株式会社雨風太陽（岩手県）

株式会社雨風太陽は、産直アプリの運営、生産者側の情報発信、生産者の元での滞在体験等、生産者と消費者をつなぐ取組を実施しています。

主軸の事業は、産直アプリの運営で、農林水産物及びその加工品等を取り扱っています。生産者は自分自身で売価を設定して出品し、消費者は生産者と直接やり取りし、商品を購入します。

また、生産者の情報を発信する取組として、冊子と食品をセットで販売する「食べる通信」、イラストが中心の子供向け食育冊子「こども食べるしんぶん」等を発行し、食べ物の生産過程や生産者の思い等、食べ物の背景にある情報を発信しています。

さらに、産直アプリに出品している生産者がいる地域に親子で1週間程度滞在し、生産現場での体験や生産者との交流を通して食の裏側を学ぶ「ポケマルおやこ地方留学」も行っています。滞在先では、親はリモートワークを行う環境が整えられており、子供は生産者とともに農林漁業体験や狩猟体験等を行います。例えば猟師とともに鹿猟に同行するメニューでは、目の前で仕留められた獲物を子供たちが自らの手で解体し、調理して食べます。収穫から消費までの一連の流れを体験でき、実体験から、命をいただくことや、食や生産者への感謝の念を育む機会を創出しています。ほかにも、いけすでのえさやり体験、畑での種まきや収穫体験、畜舎の手入れ等の酪農体験といった様々な体験メニューを用意しています。参加者は、五感を使った様々な体験や生産者との交流を通して、生産現場や生産者の暮らしを知り、農林漁業への理解を深めます。また、帰宅後に滞在中に関わった生産者の商品を産直アプリで購入することで、生産者とのつながりを維持・継続することができます。

参加者からは、「鹿という動物がお肉という食べ物に変わるまでの流れを知りました。人間の都合で害獣として扱われ殺されてしまうのはかわいそうだけど、農業をやっている人の生活を考えるとしかたない気もします。いただいた命はせめておいしく食べよう、残さず食べようと思いました。」「ツアー参加後はスーパーで買物をする際も、食品の産地をチェックするようになった。食卓に上がる食べ物がどこからやってきたのか、考えるようになった。」という声が聞かれています。

今後も、生産者と消費者をつなぎ、地域を持続可能にし、将来にわたって活力ある日本社会を残したいという思いを持って、たくさんの人に食の裏側を知ってもらい、生産者と消費者の相互理解を深める取組を続けていきます。



「こども食べるしんぶん」の例



現場体験の様子